

# 長崎短大4学期制に

## 来年度導入 体験学習など充実

佐世保市椎木町の長崎短大(安部恵美子学長)は、来年度から4学期制を導入し、1年次に国内外で多様な活動ができる「長期学外学修プログラム(ギャップイヤー)」を始める。地域の職を

支える人材の育成が狙い。文部科学省の大学改革支援事業「大学教育再生加速プログラム」に本年度、全国の短大では唯一採択された。5年間で約7千万円の助成を受ける予定。

プログラムでは、在学2年間で▽準備▽導入▽実践▽検証▽定着▽応用▽発展▽完成の8期間(各2〜4カ月)に分類。1年次の8〜11月(実践期間)に、学生は、企業でインターンシップ(就業体験)をした後、海外へ留学する。出向いた企業や地域にある、それぞれの課題を学生が自ら見つけ、解決策を導き出す。「実践」は同短大が市と

連携して展開している地域密着型学習「Awesome Sasebo」事業を充実させた形。教員は「検証以降の段階で、学生の成果を細かく評価したり、フィードバックするなどして質を高めていく。こうした取り組みを通じ、卒業後の将来を見据えた学びを支援する。

2016年度入学生から適用し、国際コミュニケーション学科が対象。今後、全学的に実施したい考え。同短大は「早期の社会経験を通じて学生の視野が広がり、人生設計するための充実した学びが期待できる」としている。(永江倫子)